腰抜けスパイ騒動（1943）

THEY GOT ME COVERED

メディア 映画
ジャンル コメディ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 93分
公開情報 劇場未公開・ビデオ発売

【解説】

独軍がソ連に侵攻ーーという大ニュースを各社特派員が一斉に打電してきた頃、モスクワ駐在の混合通信社のキトリッジは、“侵攻は絶対なし”と完全にピントのズレた電文を寄越し、部長を激怒させ、ワシントン本社に帰っても誰も相手にしてくれない（飼い猫さえも）。ただ、恋人クリス（ラムーア）だけは別。折しも彼女に再会中、姿を見せた情報屋バネスキューは、首都でのゲシュタポの諜報活動のネタを提供。彼らは速記記者のサリーを伴って密会に向かうはずが、とんだ勘違いをしたために、彼女を巡っての争奪戦が繰り広げられる。そして、運命の悪戯で、事件の鍵を握るバネスキューの妻を名乗る女オルガに出会うキトリッジだが、酒に眠り薬を盛られくらくら。そして、そのまま、クラブ歌手のグロリアとの結婚届にサインさせられ、ナイアガラまで運ばれた。祝福ムードに狐につままれたようなキトリッジ。グロリアは下品な女だが、ナチの手先になるのだけはイヤだと言って敵に葬られてしまう。やがて、サリーの情報で敵の本拠地をつきとめたキトリッジは、その美容サロンで大騒動を起こしながらも彼らのシッポをつかみ、大特ダネをものにするのだった。時局に乗じたホープ単独主演作だが、図々しくてマヌケな記者役がすっかり板について、ボヤキの芸も快調、話の運びそれ自体もなかなか面白い。山場となる、自転車に乗るマネキンに化け敵の会議を傍聴するくだりは抱腹絶倒。ホープが一番乗っていた時期の作品で、ナチ黒幕役で監督プレミンジャーが登板、というのも見もの。Ｄ・バトラーはこの手のもたれない喜劇がなかなかうまい。

【クレジット】

監督	デヴィッド・バトラー	David Butler
製作	サミュエル・ゴールドウィン	Samuel Goldwyn
原案	レオナルド・Ｑ・ロス	Leonard Q. Ross
	レナード・スピゲルガス	Leonard Spigelgass
脚本	ハリー・カーニッツ	Harry Kurnitz
追加台詞	フランク・フェントン	Frank Fenton
	リン・ルート	Lynn Root
撮影	ルドルフ・マテ	Rudolph Mate
音楽	ハロルド・アーレン	Harold Arlen
	リー・ハーライン	Leigh Harline
	ジョニー・マーサー	Johnny Mercer
出演	ボブ・ホープ	Bob Hope
	ドロシー・ラムーア	Dorothy Lamour
	レノア・オーバート	Lenore Aubert
	オットー・プレミンジャー	Otto Preminger
	エドワード・シャネリ	Edward Ciannelli
	マリオン・マーティン	Marion Martin

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

ドナルド・ミーク	Donald Meek
フィリス・ルース	
フィリップ・アーン	Philip Ahn
ドナルド・マクブライド	Donald MacBride

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.